

オイスカタイ総局一行センター訪問

6月8日(金)～14日(木)にかけて、オイスカタイ総局の一行8名が福岡を訪問し、10月に実施されるタイ国チェンライ県の農村の方を対象とした視察プログラムの下見と調整を目的として見学が行われました。

福岡に滞在したのは初日の6月8日と13日の2日間で、それ以外は宮崎県の諸塚村や大分県に出向いて見学を行っていました。

福岡県では、センターの地元脇山の農家のお母さんの取り組みの見学や、うきは市にある果物の栽培農家の農園見学やジェラートのお店など、加工も含めた農家さんの取り組みを見学しました。

タイのチェンライ県という所は、タイ北部の山間部に位置しており、その農家さんにとって参考になる視察の内容を準備するという事で、皆さん真剣に視察に取り組んでいました。(豊田副所長)



タイ一行8名と一緒に
写真撮影

防災訓練

6月21日にセンターで防災訓練を行いました。始めに30分ほど防災に関するDVDを観賞しました。その後、消火器、避難方法についての説明のあと実際に警報器を鳴らして避難訓練を行いました。数日前には、大阪で大きな地震もあり大変な被害がでました。また、昨年の7月には九州北部地方でも大雨による災害があり、いつどこで災害が起きるか分かりません。研修生たちにも日頃から防災の意識を持ち、災害時にまずは自分の身を守る行動をとれるようにしてもらいたいです。(彦坂課長)



イエローシートキャンペーン

6月11日(8月)、イオン甘木店でイエローシートキャンペーンが行われ、海外研修生7名とオイスカ朝倉推進協議会(秋重義信会長)からも3名ご参加いただきました。

基礎研修を修了したばかりの研修生は覚えたての日本語を使って一生懸命キャンペーンご協力の呼びかけをしたり、朝倉推進協議会の秋重会長や鶴田副会長と話をしていました。最後の方はかなり慣れてきて、とても楽しくキャンペーンに参加できたと思います。

次回は来年1月の予定で、多くのレシートのご協力をお願い致します。(安東)



朝倉推協役員と研修生
一緒に頑張った様子

長崎県推進協議会総会に参加&長崎県立大学学生との交流会参加

6月12日(火)、長崎県推進協議会の総会が佐世保市内のホテルで開催され、センターからも研修生全員で参加してきました。

平日という事もあり、総会に出席した会員さんは8名と若干少なかったですが、研修生と懇親を深めたり民族舞踊を披露したり、大変賑やかで楽しい総会を行う事ができました。

総会が終了してから佐世保市内にある長崎県立大学のキャンパスに出向き、職員の皆さんから温かい歓迎を受けてから、講義への参加や学生との交流会など楽しい時間を一緒に過ごすことが出来ました。

特に女性の研修生は、浴衣の着付けをはじめて体験するなど貴重な体験もさせていただき、お互いに楽しい思い出をつくる事が出来ました。

長崎県推進協議会の皆様、楽しい思い出を有難うございました。(豊田副所長)



オイスカ長崎県推進協議会と研修生達の集合写真



長崎県立大学で学生との
交流会の様子

熊本県西原村へ農業、草刈りボランティアに行ってきました

6月19日(火)、熊本県西原村へ草刈りと農業のボランティアに研修生、スタッフ合わせて17名で参加してきました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、草刈りの作業は通常通り実施され、がけ崩れの被害が一部あった斜面と畑の草刈りを無事終了し、地元の方からの要望にも応えることが出来ました。

参加した研修生も一生懸命作業に参加し、地元の方も「よく身体が動くね」と感心していました。

農業ボランティアでは、サツマイモの苗場の片付け作業やニンニクをきれいにする作業を倉庫内で行い、農家のお母さんたちとも仲良くなって、楽しく作業を行う事が出来ました。(豊田副所長)

西原村での草刈り
ボランティア作業の様子



OB 研修生のナラさんの帰国挨拶

私は去年の4月5日に西日本研修センターへ来て、1年3ヶ月間の指導員研修を受け、帰ってからリーダになるために、先生方から色々な勉強をさせていただき本当にありがとうございました。研修期間中に間違いがあったら、申し訳ございませんでした。帰国日ちょうど私の誕生日です。面白くて、思い出に残ると思います。

国へ帰ってからやりたい仕事がたくさんです。その中で一番やりたいことはゴミを解消することです。朝倉市で3日間のホームステイに行きました。その時、ホームステイのお母さんにこういうことを聞きました。「日本の海なぜとも綺麗ですか。」私の故郷のラバウル州のココボ町の海の近くのゴミがなかなか無くなりません。以前 JICA ボランティアの人達と近くの海を掃除しました。しかし、数日後、またゴミがありました。ゴミはどこから来ているか分かりません。ですから、帰ってから、農家の人々に日本で学んだ知識を伝えたいです。これからが大変と思いますが応援よろしくお願いします。本当にお世話になりました。(ナラ)



早良中学校職場体験

6月27日、28日に早良中学校の生徒2名が職場体験に来ました。職場体験は進路学習の一環として行われています。仕事を直接体験することで社会で働く様々な人の生き方に触れたり、働くことの意義を学ぶことが目的となっております。今回、研修生と一緒にネギの定植、イチジクやトマトの管理、玉ねぎの根を切る作業を体験してもらいました。

川邊さん(左)「オイスカの方達と農業体験ができて、いろんなことを学んだり、楽しむことができたからよかったです。」

真子さん(右)「2日間オイスカの皆さんと農業の体験をして、農業の大変さや大切さを身をもって感じる事ができました。貴重な体験ができて良かったです。」

2日間お疲れさまでした！この体験がなんらかの形で将来に繋がると嬉しいです。(園田)



三菱 UFJ ニコスの皆さんと朝倉ボランティア参加

6月23日(土)、三菱 UFJ ニコスの福岡支店の社員の方を中心に18名が参加し、オイスカからは研修生とスタッフ合わせて13名が参加し、計31名のチームで朝倉復興支援のボランティア活動に参加してきました。

当日の午前中はあいにくの雨模様で、倉庫内での作業が中心になりましたが、7月に実施予定のイベントで使用する竹燈明の材料を伐採、加工する作業を行いました。

午後からは雨も止んで、一部の参加者で柿畑の土砂出し作業を行い、竹林の伐採作業も含めて気持ち良い汗を流すことが出来ました。

7月5日で被災してから1年が経過しますが、被災した当時の状態がそのまま残っている家屋や農地もまだまだたくさんあります。

オイスカとしても様々な企業や団体の方と一緒に、今後もボランティアの活動を継続していく予定です。(豊田副所長)



「田植え大会」今年も盛りだくさん

今年も6月2日(土)のこらぼらQでんの主催イベントである田植え大会を皮きりに、6月16日(土)の脇山校区主催の田植え大会にかけて、計4回田植えのイベントが開催されました。

6月2日(土)のこらぼらQでんの田植え大会には、ボランティアの参加者を含めて200名もの方に参加していただき、「元気つくし」の苗を20aの田んぼに植えていきました。毎年このイベントでは、田んぼアートづくりという事で、毎回田んぼの中にデザインされたキャラクターの絵の中に、3種類の苗を間違えないように植える作業も行います。植え終わった瞬間にはみんなで喜びを分かち合う光景も見られました。

翌週の6月9日(土)にはオイスカ主催の田植え大会が開催され、今回はJR九州の本社からも家族連れで参加して頂き、昼食にはバーベキューも振舞われ、海外研修生の歌ありダンスありで大いに盛り上がった田植え大会となりました。

そして最終日である脇山校区主催の田植え大会では、今年が主基齋田90周年という事で「お田植え祭」の記念行事として盛大に開催されました。

聞くとところによりますと、当日は400名の方が会場や田んぼに訪れ、伝統的なお田植え舞の踊りに合わせて、早乙女の皆さんが田んぼに入って田植えをする風景は、まさに感動的で、本当に素晴らしいものを見せてもらいました。

その他にも春日市にある若竹保育園の年長園児を招いて田植え行事を開催したりと、毎週忙しく田植えの季節を過ごしました。稲作担当のマルビンさん、そして研修生の皆さん、本当にお疲れ様でした。この調子で稲刈りもよろしくお祈りしますね。(豊田副所長)



主基齋田90周年記念・お田植え祭の様子



こらぼらQでん植え大会の様子

福岡リパティライオンズクラブ35周年記念事業として西日本研修センターへ寄付金贈呈

福岡リパティライオンズクラブの結成35周年事業として西日本研修センターへ20万円の寄付金目録を6月26日の例会で松原会長より廣瀬所長へ贈呈されました。このクラブは発足以来西日本研修センターの事業はじめ海外の研修生に対してのご支援や、またオイスカパラオ研修センターの建設等にも多大なご協力をいただき等、これまで長年にわたりご支援をいただいております。クラブの皆様ご支援有難うございます。

これからもよろしくお願いいたします。(満川)



廣瀬所長へ
寄付金贈呈



体験農園だより

うっとおしい梅雨空が続くかと思えば、急に強い日差しが照り付ける猛暑日になるなど、身体が気象の変化に追いついて行けない日々が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

このような異常気象が続く昨今では、安定的な生産を維持するための作物を栽培することが非常に難しい状況になっています。

この状況は日本に留まらず、海外研修生の国でも同じような問題が起こっています。

大雨や巨大台風による被害や大干ばつなど、灌漑設備や排水設備が整っていない途上国の農村地域では、農業の安定した収入が得られず、別の職を求めて街に出稼ぎに行く農家が急激に増えています。

大自然の力に抵抗することは出来ませんが、不安定な気象条件に対応するためにも、土作りを基本とした有機農業の普及は非常に重要なテーマとなっております。

日本で研修を受けたオイスカ研修生OBが、それぞれの母国で持続可能な農業生産を目指して頑張ってくれることを期待しながら、しっかりと応援していきたいと思っております。(豊田副所長)



体験農園、JR九州の皆さんとの田植え大会